

第15回 湿原再生小委員会

— 幌呂地区湿原再生について —

目 次

1. 事業実施箇所状況報告

1-1. 幌呂地区湿原再生実施箇所の現地踏査について

【平成24年、25年度再生箇所】

1-2. 地下水位の観測結果報告

1-3. 外来種（オオアワダチソウ）の調査結果報告

2. 平成26年度の実施内容について

2-1. 平成26年度の実施内容について

3. 地域との連携

3-1. 現地見学会（ヨシ移植会）の報告

1. 事業実施箇所の状況報告

1-1. 幌呂地区湿原再生実施箇所の現地踏査について【平成24年、25年再生箇所】

平成24年、平成25年度に地盤切り下げを実施した箇所について、7月と9月の2度、植物の専門家とともに現地踏査を行いました。

◆目的

植物の専門家とともに現地踏査を行い植生の生育現状から湿原の再生状況について評価していただき、今後の湿原再生の参考とさせていただくものです。

○現地踏査1回目

踏査日：平成26年7月30日（水）

専門家：北方環境研究所 所長 神田先生（湿原再生小委員会委員長代理）

同行者：釧路開発建設部 治水課及び釧路河川事務所職員

○現地踏査2回目

踏査日：平成26年9月9日（火）

専門家：北方環境研究所 所長 神田先生（湿原再生小委員会委員長代理）

同行者：釧路開発建設部 治水課及び釧路河川事務所職員

1-1. 幌呂地区湿原再生実施箇所の現地踏査について【平成24年、25年再生箇所】

【各再生箇所における切下げ深の概要(各箇所の番号及び枝番は施工年次及び箇所分けを表す)】

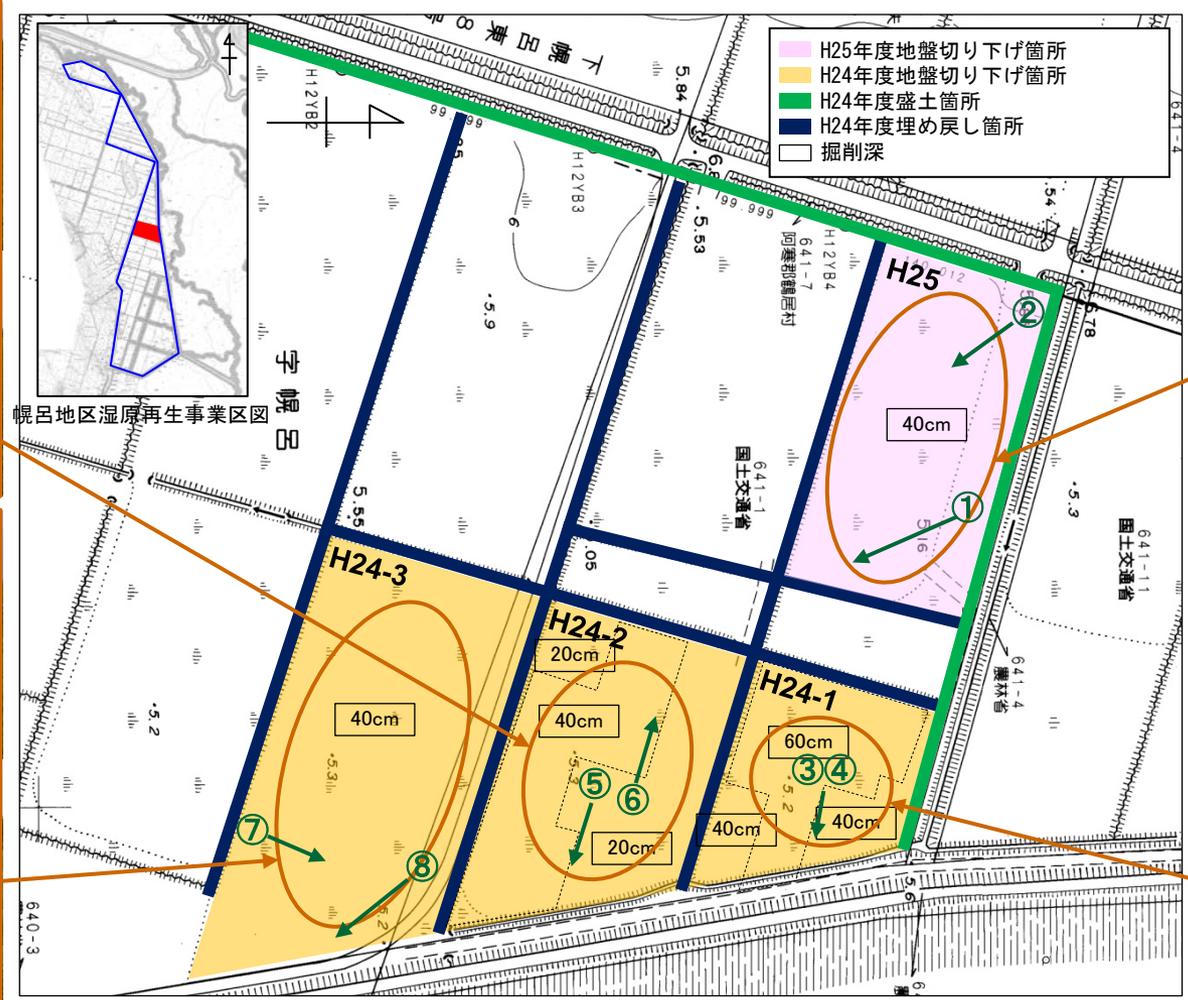
H24-1: 計画切深40cm(オオアワダチソウ無し)。事前調査でオオアワダチソウが確認された箇所については更に20cm切下げ※。

H24-2: 計画切深20cm(オオアワダチソウ無し)。事前調査でオオアワダチソウが確認された箇所については更に20cm切下げ※。

H24-3: 計画切深40cm(オオアワダチソウ考慮)。

H25 : 計画切深40cm(オオアワダチソウ考慮)。

※計画当初、オオアワダチソウが見られなかった箇所でも、施工前の調査で広範囲な分布が確認された場合、冠水頻度高めるため切深を増やしています。



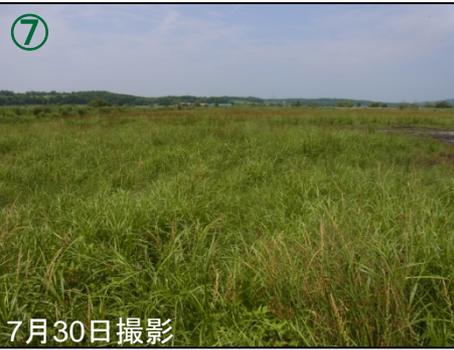
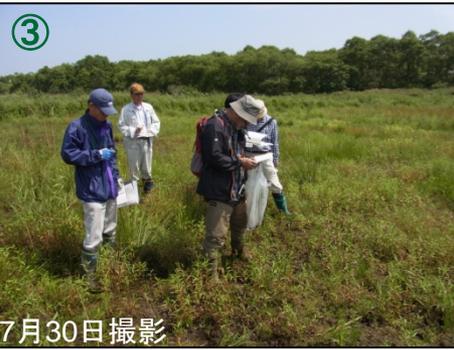
1-1. 幌呂地区湿原再生実施箇所の現地踏査について【平成24年、25年再生箇所】

H24-1区画
 地下水位WL+10・-10cm
 切下げ深40cm・60cm

H24-2区画
 地下水位WL+10・-10cm
 切下げ深20cm・40cm

H24-3区画
 地下水位WL-10cm
 切下げ深40cm

H25区画
 地下水位WL-10cm
 切下げ深40cm



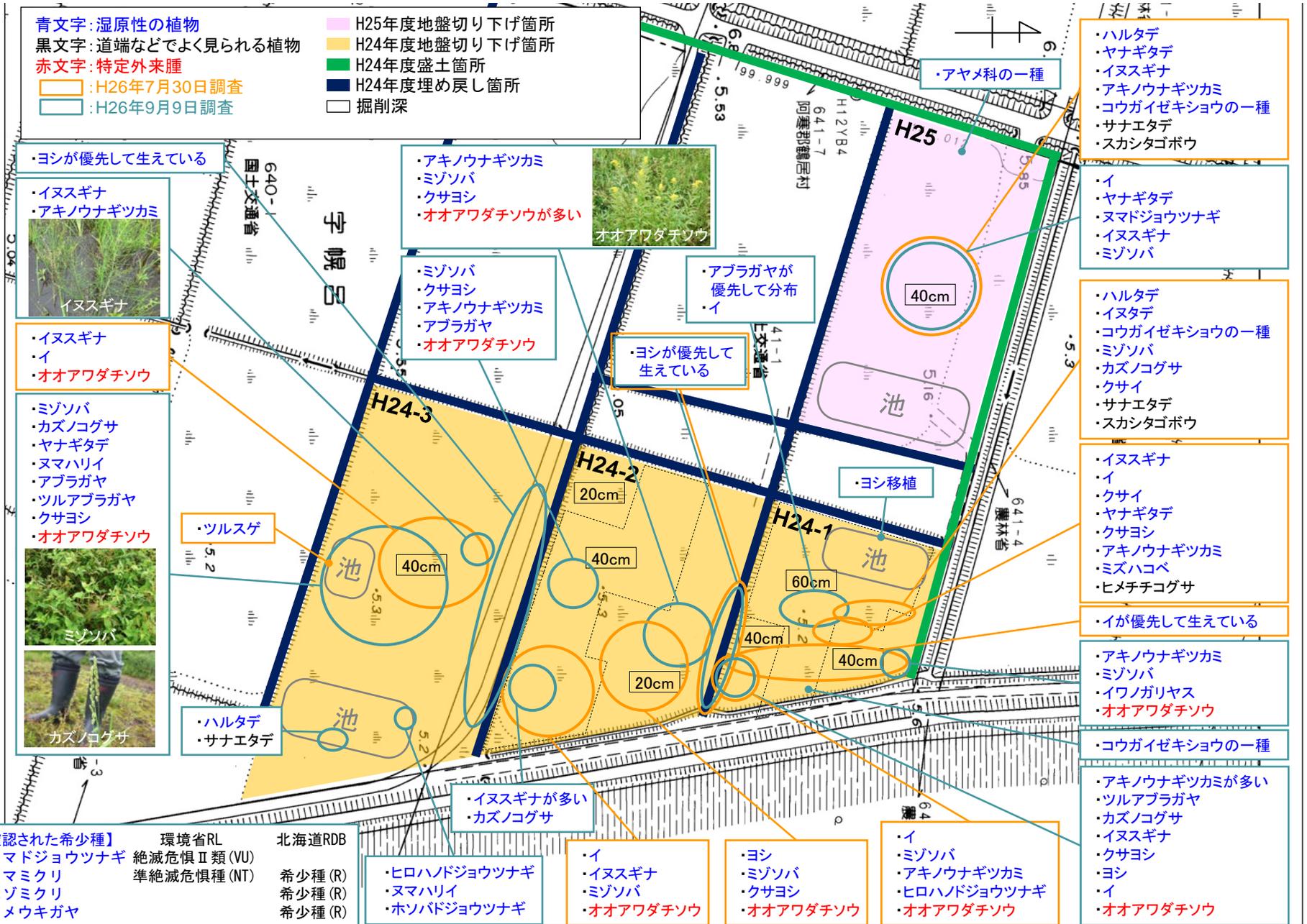
- ・クサヨシは少し生えている程度で大分少なくなった。今後様子見。
- ・カズノグサを見るのは稀だがここは多く生えている。
- ・掘削深60cmの箇所の一部でヨシの移植を行った。

- ・掘削深20cmの箇所は、クサヨシ、オオアワダチソウが入ってきて元の状態に戻りつつある。
- ・掘削深40cmの箇所は、イが外来種の侵入を防いでいる。イはそのうちヨシに変わると考えられる。

- ・湿原に戻る過程としては良い状態だと思われる。
- ・オオアワダチソウとクサヨシは7月と比べ勢いが無い。
- ・オオアワダチソウは地下茎からではなく種から生えてきたと思われ、冬の間枯死すると考えられる。

- ・オオアワダチソウは生えてなく、その他外来種の侵入もないのでまあまあの状態。
- ・一部地盤が乾いている所があるので今後注意が必要
- ・イヌスギナ、ハルタデ、ヤナギタデが多いが、湿原の植物なので問題ない。
- ・2回の踏査とも植生は多くない。

1-1. 幌呂地区湿原再生実施箇所 の現地踏査について【平成24年、25年再生箇所】



1-1. 幌呂地区湿原再生実施箇所の現地踏査について【平成24年、25年再生箇所】

【H24区画現地踏査結果】

【H24-1区画】

- ・クサヨシは少し生えている程度でだいぶ少なくなった。
- ・カズノコグサを見るのは希だがここは多く生えている。
- ・切下げ深40cm箇所は、ミゾソバが多く生えており、このまま維持されると想定される。
- ・切下げ深40cmの箇所は、一年草であるアキノウナギツカミやイヌスギナが多い。将来的にはアブラガヤに植生が変わるかもしれない。

【H24-2区画】

- ・切下げ深20cmの箇所は、1年経過しても状態の変化はあまり無い。クサヨシ、オオアワダチソウが入ってきて元の状態に戻りつつある。
- ・オオアワダチソウは、地下茎からではなく種から生えてきたと思われる。
- ・切下げ深20cmの箇所は、去年はハルタデが多かった。今年はヤナギタデ・サナエタデが多くなっている。
- ・切下げ深40cmの箇所は、イがビッシリ生えており外来種の侵入を防いでいる。
- ・旧川復元を行った茅沼地区と同じく、イはそのうちヨシに変わるとと思われる。
- ・切下げ深40cmの箇所は、イヌスギナも多く生えている。
- ・切下げ深40cmの箇所にもオオアワダチソウが生えて来るのは仕方ないが、群落として成長しなければよいと考える。

1-1. 幌呂地区湿原再生実施箇所の現地踏査について【平成24年、25年再生箇所】

【H24区画現地踏査結果】

【H24-3区画】

- ・タマミクリ【準絶滅危惧(NT)】が見られたが、鳥によって運ばれたと推測される。
- ・湿原にもどる過程としては良い状態だと思われる。
- ・オオアワダチソウとクサヨシは7月と比べ勢いが無い。
- ・生えているオオアワダチソウは地下茎からではなく種から生えてきたと思われ、冬の間枯死すると予想される。

【H25区画現地踏査結果】

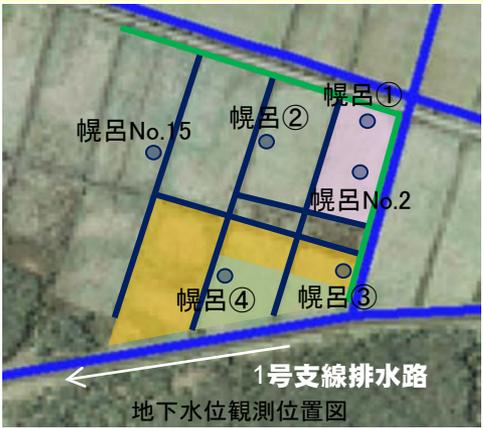
- ・オオアワダチソウは生えて無く、その他外来種の侵入もない状態である。
- ・一部地盤が乾いている所があるので、今後注意が必要である。
- ・イヌスギナ、ハルタデ、ヤナギタデが多いが湿原の植物なので問題ない。
- ・2回の踏査とも植生は多くない。

【今後に向けて】

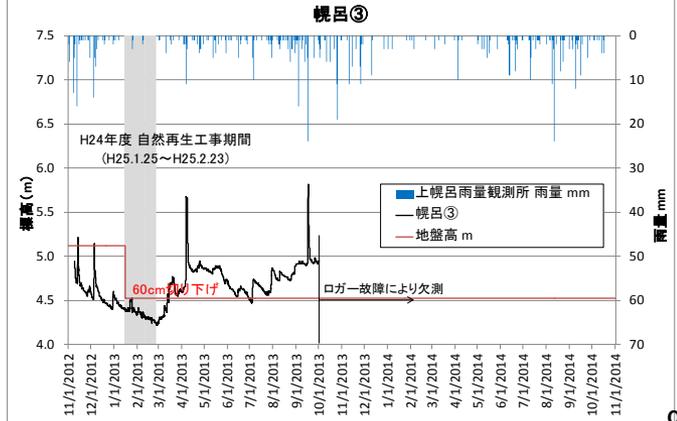
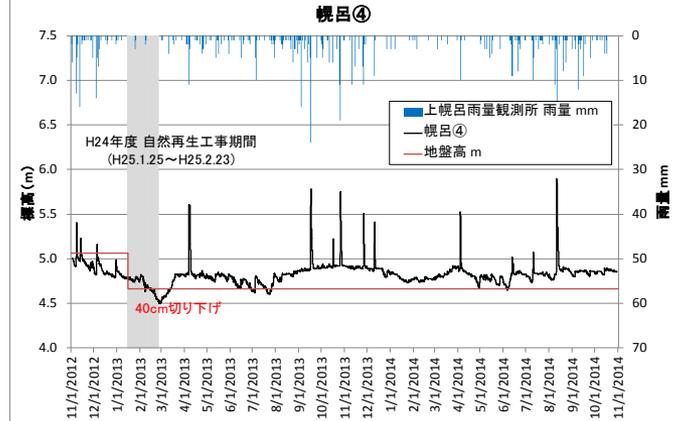
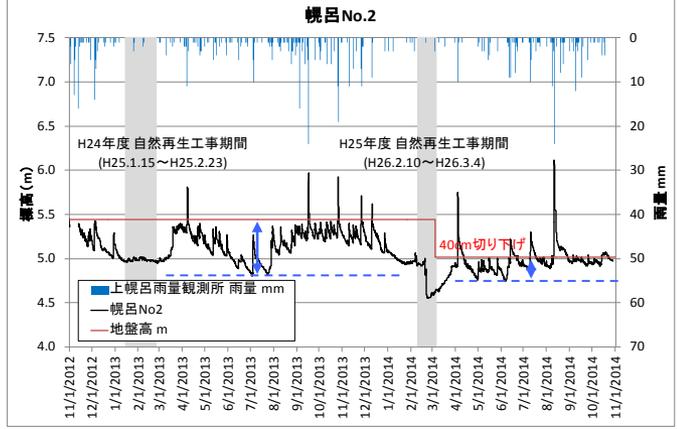
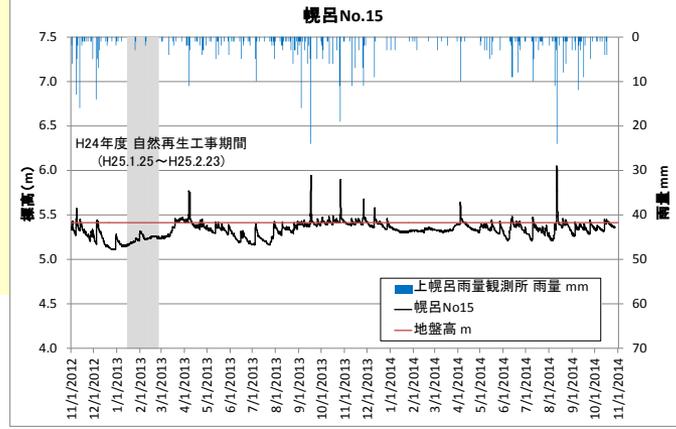
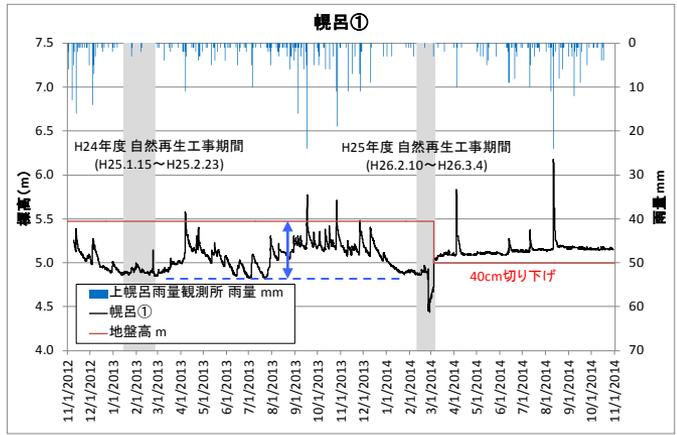
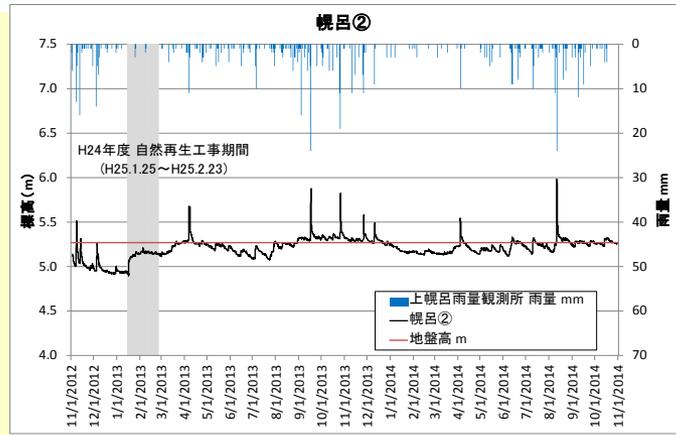
- ・切下げ深20cmでは、切下げ前の地盤の根が残っている可能性があり、広範囲にオオアワダチソウが分布している箇所は順応的管理として再度切下げを行う。
- ・2カ年の踏査でも、切下げ深40cmの箇所は植生の状態が良いと思われ、最低切下げ深は40cmとする。
- ・切下げ深40cm以深の箇所でもオオアワダチソウが生えてきた場合、群落として成長しなければ経過観察とする。
- ・水深の深い池になっている箇所は、ヨシ束を移植するとヨシが根付くと考えられ、移植も検討する。

1-2. 地下水位の観測結果報告

- ・ 幌呂①～④は、H24年度追加観測地点。幌呂No. 2, 幌呂No. 15は、既設観測地点。
- ・ 幌呂①の切下げ後は冠水状態となっている。
- ・ 幌呂No. 2の切下げ後は地下水位がより地盤高に近い位置で変動し、振幅は小さくなっている。
- ・ 幌呂③及び幌呂④の地下水位は、地盤切下げ後、ほぼ冠水した状態で、水位観測地点付近ではオオアワダチソウは見られない。幌呂③周辺は池になっており植生は見られない。
- ・ 幌呂②及び幌呂No. 15は未利用排水路埋め戻し箇所近傍に設置されており、埋め戻し実施後の水位の挙動が類似している。地盤切下げ後は幌呂④と同じく冠水頻度の増加し、湿原再生が期待される。

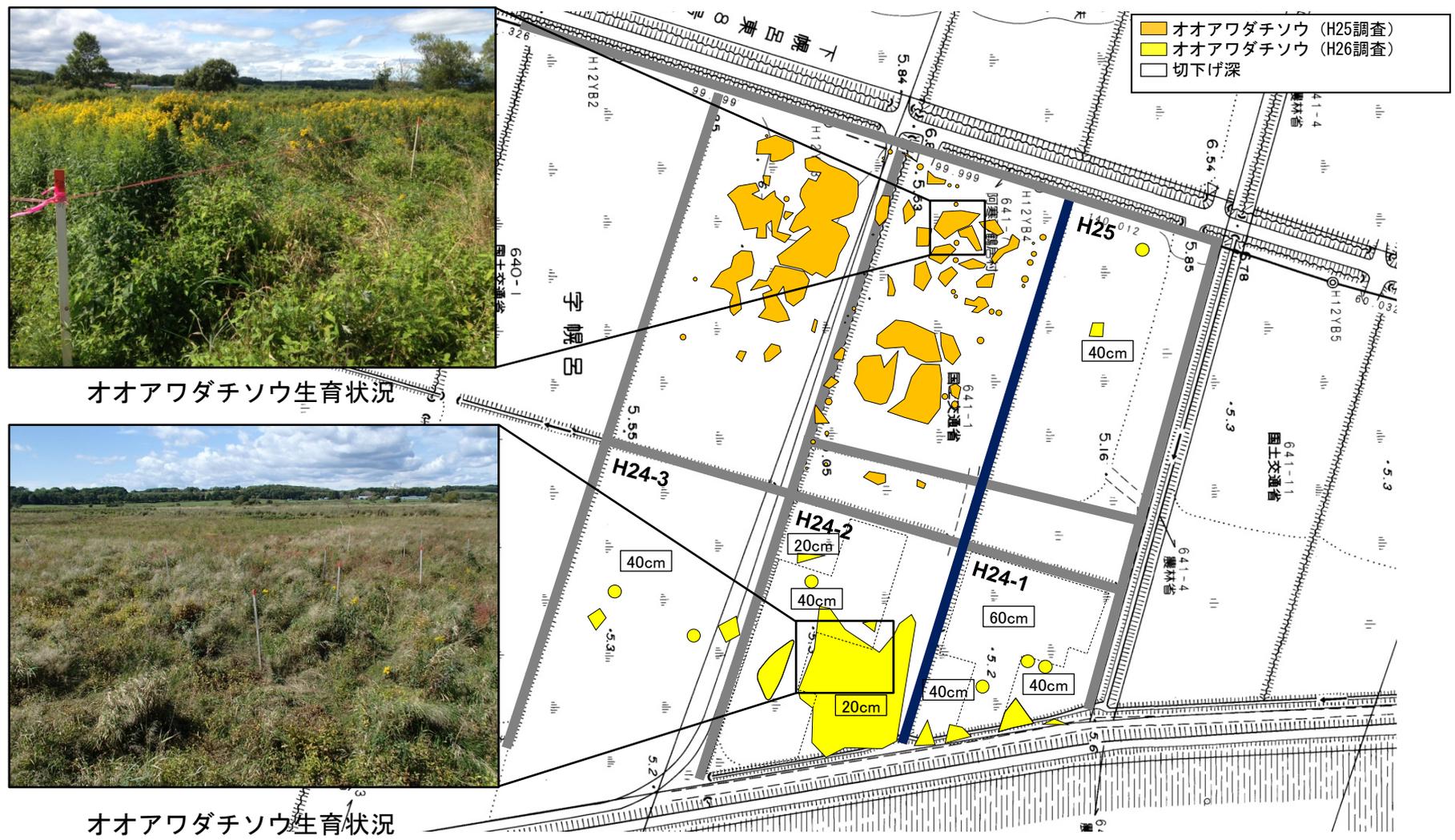


- 地下水位観測位置
- H25年度地盤切り下げ箇所
- H24年度地盤切り下げ箇所
- H24年度盛り箇所
- H24年度埋め戻し箇所



1-3. 外来種（オオアワダチソウ） 調査結果報告

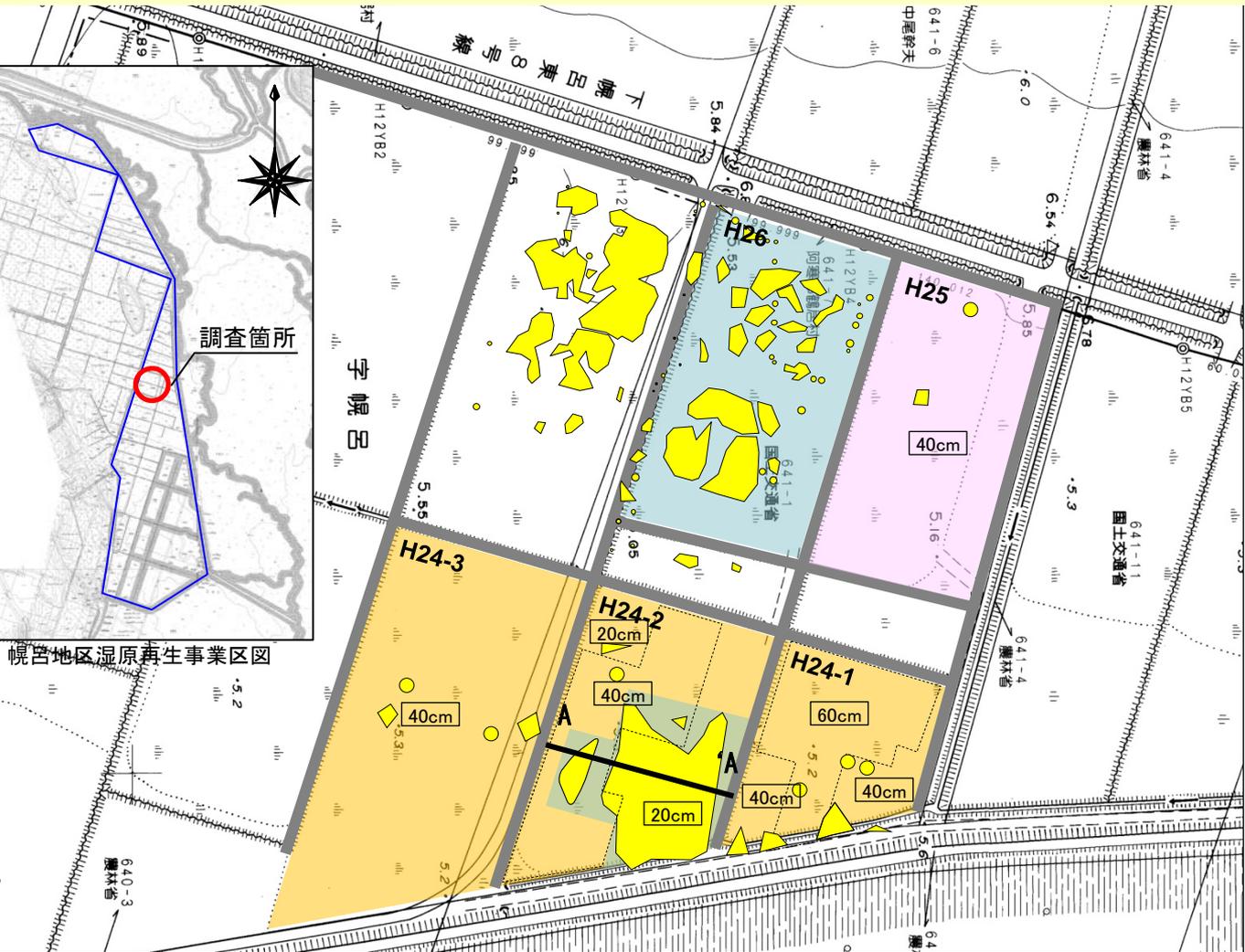
- ・平成25年度及び平成26年度の調査結果と、現地踏査よりオオアワダチソウの生育状況を確認した。
- ・オオアワダチソウは、過年度に地盤切下げを行った箇所での生育が確認された。
- ・殆どは小さく点在しているが、H24-2の切下げ深20cm箇所では広く分布している。



2. 平成26年度の実施内容について

2-1. 平成26年度の実施（案）について

- ・事前に今年度の工事実施予定区域周辺について、外来植物（オオアワダチソウ）の調査を実施した。
- ・下図に示すとおり、今年度の地盤切下げ箇所予定は、オオアワダチソウが広く分布していること、また過年度の現地踏査から最低切下げ深を40cmとしたことから、切下げ深は40cmとする。
- ・また、平成24年度に地盤の切下げを行ったH24-2箇所では、特に20cm切下げ区域で広くオオアワダチソウが分布していたことから、順応的管理として再度切り下げを行う。

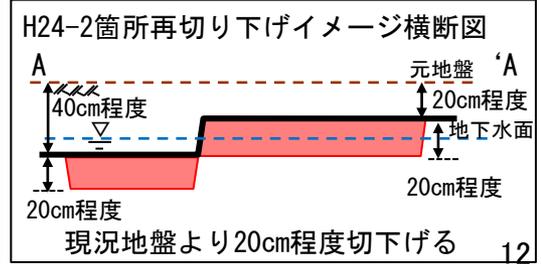


平成26年度実施概要
H26箇所 切下げ面積 A=1.0ha
 切下げ深 H=0.40m
H24-2箇所 オオアワダチソウ分布箇所
 切下げ深 H=0.20m



凡例

- H26年度地盤切り下げ実施予定箇所
- H25年度地盤切り下げ箇所
- H24年度地盤切り下げ箇所
- 切下げ深



3. 地域との連携

3-1. 現地見学会（ヨシ移植会）の報告

開催概要

- 「みんなの手で湿原環境を再生しよう」
- ・開催日：平成26年8月7日（木） 10:00～12:00
 - ・開催場所：幌呂地区 湿原再生区域（鶴居村下幌呂）
 - ・主催：釧路湿原自然再生協議会 湿原再生小委員会
釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会
 - ・参加者：22名
 - ・実施項目：幌呂地区湿原再生現地見学、ヨシ移植会
- ◆プログラム
1. 開会（10:00～10:15）
 2. 現場見学（10:30～11:30）
 - ・事業説明
 - ・植生回復試験地見学
 - ・湿原再生現場見学
 - ・ヨシ移植体験
 3. 閉会（11:45～12:00）

- 参加者からのコメント（アンケートより抜粋）
- ・移植したヨシの生育状況を次年度以降、確認させて頂きたい。
 - ・泥炭層や現在行われている事業内容について等の説明があり、湿原について色々を知ることが出来た。
 - ・移植等を通じ、自然に戻すことの大変さを学んだ。タンチョウが営巣できるまで再生して欲しい。
 - ・子供に学んでもらう事が次世代の環境保全につながると考える。
 - ・湿原について学べたが、言葉が専門的で少し解りづらい箇所があった。なるべく専門用語は使わないで欲しい。
 - ・ヨシの移植にもっと時間をかけ、広範囲に移植を行いたい。



湿原再生事業の説明



参加者の皆さん



釧路湿原自然再生事業 幌呂地区湿原再生（平成24年9月撮影）



ヨシの移植

- 平成27年度計画(案)
- 現地見学やヨシの移植を通じ、釧路湿原の現状や自然再生について理解していただく。
- ・募集人数：20名程度
 - ・時期：7月下旬から8月上旬頃
 - ・内容：現地見学及びヨシ移植